

政府方針に懸念相次ぐ

日本学術会議が総会

日本学術会議は16日、都内で総会を開き、政府が検討を進めてる学術会議のあり方の改革への対応などを議論しました。

政府は4月、学術会議の独立性を損なう改憲法案については通常国会への提出を見送る一方、学術会議を民間法人とする案も含め、あり方を議論する有識者懇談会の設置方針を表明。総会では会員からさまざまな懸念が出され、同懇談会の議論を意義あるものにするための意見が出されました。

日本学術会議の第188回総会=16日、東京都港区

有識者懇談会は、学術界や経済界の関係者ら10人程度で構成し、当事者である学術会議には構成員外での参加を求め、議論は非公開

としています。
会員からは、学術会議が既に示している「政府から

の独立」といったナショナルアカデミーとしての「5要件」を、明確に主張していく重要性を強調する意見が相次ぎました。

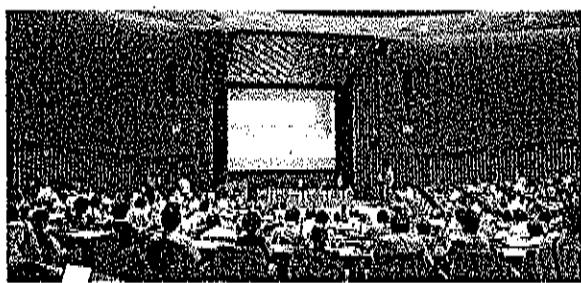
懇談会の議論が政府側の

9月末で会長の任期を終える櫻田氏は、菅義偉首相（当時）による6人の会員候補の任命拒否という「異常事態から始まった」と、2020年10月からの今期

の活動を振り返り、任命問題がいまだに解決していないことを憂慮。次期においても「5要件」を念頭に難局に対処してほしいと期待

た。会員からの意見を受け、懇談会の構成員にも参加を呼びかけたらしいが、「5要件」を念頭に難局に対処してほしいと期待

を述べました。



田隆章会長は「ナショナル

アカデミーとしての本質を忘れずしっかり議論すべきだと受け止めた」と述べました。